

香港などで新型コロナウイルス拡散…韓国疾病管理庁「ワクチン接種参加」要請

5/23 中央日報



新型コロナウイルスが香港など一部の国家で拡散傾向を示している。写真はワクチン接種の様子。

〔写真 ロイター＝聯合ニュース〕（中央日報日本語版）香港など一部の海外国家で新型コロナウイルス拡散傾向が続く中で、韓国では患者数が大きな変動なく安定した水準を維持していると防疫当局が明らかにした。

韓国疾病管理庁は「例年の流行様

相を考慮すると、この夏、韓国内でも新型コロナウイルスが拡散する可能性がある」とし、手洗いなど基本的な呼吸器感染症予防規則を守り、高危険群はワクチン接種に積極的に参加してほしいと呼びかけた。

23日、疾病管理庁によると、今年第20週（5月11～17日）基準で病院級の標本監視医療機関221カ所の新型コロナ入院患者数は100人で、直前の週よりも減少した。最近の推移を見ると、第17週127人、第18週115人、第19週146人と小幅の増減を繰り返してほぼ横ばいの水準を維持している。

入院患者規模は安定しているが、65歳以上の高齢層が全体入院患者のうち59.3%（1376人）を占めていて注意が必要だ。

反面、新型コロナウイルスの検出率は増加に転じた。「国家呼吸器ウイルス病原体統合監視体系」によると、第20週の検出率は8.6%で、第13週13.1%から第19週2.8%まで下落した後、第20週に再び5.8%ポイント上昇した。

海外では香港・台湾・中国などを中心に新型コロナ患者数が増加している。第20週の香港の新規患者は977人で、直前週1042人よりも小幅で減少したが、昨年夏のピークに比べると依然と高い水準だ。重症患者（死亡含む）は直前週18人から今週27人に増加した。

台湾では同期間、新型コロナで外来・救急室を訪れた患者が1万9097人で、直前週より91.3%急増した。中国でもインフルエンザが疑われる患者のうち新型コロナ陽性率が上昇を続けている。

疾病庁は韓国内外の新型コロナ発生動向を引き続きモニタリングすると明らかにし、特に高危険群のワクチン接種参加を繰り返し要請した。

現在高危険群を対象としたワクチン接種は来月30日まで延長して実施される。接種対象は65歳以上の高齢者、生後6カ月以上の免疫低下者、感染脆弱施設の入院・入所者などだ。今月20日基準で高危険群接種率は47.4%で半分を超えることができていない。池榮美（チ・ヨンミ）疾病管理庁長は「新型コロナ流行国への旅行時には感染予防規則を順守し、入国時に疑い症状がある場合、検疫官に知らせてほしい」とし「高危険群は今からでもワクチンを接種しなければならない」と強調した。